

基調講演・公開審査会記録

日時：2020年4月10日（土）

13:00~17:00 場所：Zoom 参加人数：29名

登録者数：26組（29名） 出展数：19作品

発表者数：13組（15名）

記録者：千葉大学大学院 植木萌 折橋美咲

【概要】

JIA 城東地域会主催による第2回「なりたて建築士のための設計コンペ」の基調講演及び公開審査会が行われました。新型コロナウイルスの影響もあり、密を避けて Web での開催でありましたが、滞りなく行われました。基調講演は、2019年度の課題は美術館分館のため、日建設計勤務時代にホキ美術館の設計を担当された鈴木隆氏に「ホキ美術館の設計を通して考えたこと」をテーマに、2020年度の課題は高齢者介護施設のため、高齢者住居等のゆいま〜る那須の設計をされた瀬戸健似氏に「高齢者の住まいについて」をテーマに行っていただきました。公開審査会は、参加した出展者に発表していただき質疑応答を踏まえ、最優秀作品2点、優秀作品4点が決定いたしました。

【基調講演内容】

①鈴木隆氏「ホキ美術館の設計を通して考えたこと」

クライアントである保木将夫さんは写実絵画に魅了され、約500点の写実絵画作品を収集しており、世界でもまれな写実絵画専門美術館の設計を依頼した。公園と住宅地に挟まれた敷地のコンテクストを読み取り、公園側・住宅側それぞれの周辺環境を考慮したファサードデザインを追求した。すべての作品を展示するのに約500mの回廊が必要で、鑑賞に最適な距離に着目しつつ敷地の道に合わせたスタディを何度も繰り返し回廊型ギャラリーを完成させた。写実絵画という繊細な作品の鑑賞に適した空間をデザインすることが美術館としての最適解であると考え、ピクチャーレールのない展示室や目地のない仕上げなど仕上げ・設備・構造が一体となった建築をめざした。成し遂げるために、モックアップ作成を行うなど細かいところまで突き詰めることが重要である。防煙壁のデザインでは法のもとであるが新しいデザインを導入した。若手作家がするための展示室を設けることでアートシーンを活発にする仕掛けも取り入れている。

美術館を設計するにあたり、主役は絵画である。どう絵画を見てもらうか、楽しんでもらうかを重視し、多くの人に関わることでホキ美術館は完成している。②瀬戸健似氏「高齢者の住まいについて」 高齢者が暮らす共同住宅の設計において、重要とすることは「安

心」「人と人とのつながり」「サステイナブルアクティビティ」であるとする。ゆいま〜る那須ではワークショップを通して 23 タイプの住戸を作成し、それらを組み合わせることで多様性を生み出している。「集まりすぎず、散らばりすぎず」を重視し日常の 5 つのコミュニティを広小路と名付けた道でつなぐことで輪になって暮らすことを意識した全体としてのコミュニティを生み出している。団地再生型の住まいでは、団地を一棟まるごとリノベーションを行っている。最適なエレベーターの設置方法のスタディを重ねた。高齢者の住まいは、どう安心感を与え、どのような仕掛けを設けることで地域とのつながりを創出するかが重要である。

【講評審査会】

① 各作品の概要発表作品

- 1) 山田 沙代、木戸口 美幸 「Art Square -移ろいのなかで佇む-
- 3) 金子 智哉 「つながりあう美術館」
- 7) 白鳥 忠明 「快適な高齢者介護施設 ~Concept『快適さ』~」
- 8) 江田 拓矢 「公共的高齢者介護施設」
- 10) 高橋 洸太 「スケールと配列について」
- 11) 福井 貴英 「敷地境界線を超え、環境と風景という解放系の中で建築を捉え直す
-内と外の境界面を最大化し、外部環境に開いた高齢者介護施設-
- 13) 野澤 雄一郎、小川 航耀 「木漏れ陽に暮らす -森を併設した高齢者介護施設の提案-
- 20) 富樫 俊輔 「美術館の分館」
- 21) 山川 尚哉 「近づく施設」
- 23) 小林 諒 「NARRATIVE THEATER」
- 26) 梶 飛翔 「活動の場が地域へ広がる美術館分館」

紹介作品

- 6) 桐畑 理恵 「纏う美術館の分館」
- 12) 柏谷 健一 「結節点のある家」
- 14) 加藤 雄太 「カフェを併設した高齢者介護施設」
- 16) 西田 吉伸 「Turban 空気を含ませながら巻き上げていく」
- 17) 佐々木 歩貴 「階段が結ぶ地域と施設」
- 22) 木下 真紀子 「グリーンホーム~建築物の木造化と内装の木質化を目指した高齢者介護施設~」
- 24) 佐藤 由佳 「美術館の分館 アートを身近に感じられるように」
- 25) 川添 貴裕 「高齢者介護施設」

② 最終審査結果と選出理由・出展者感想

最優秀賞 (2 作品)

10) 高橋 洸太

「スケールと配列について」



選出理由

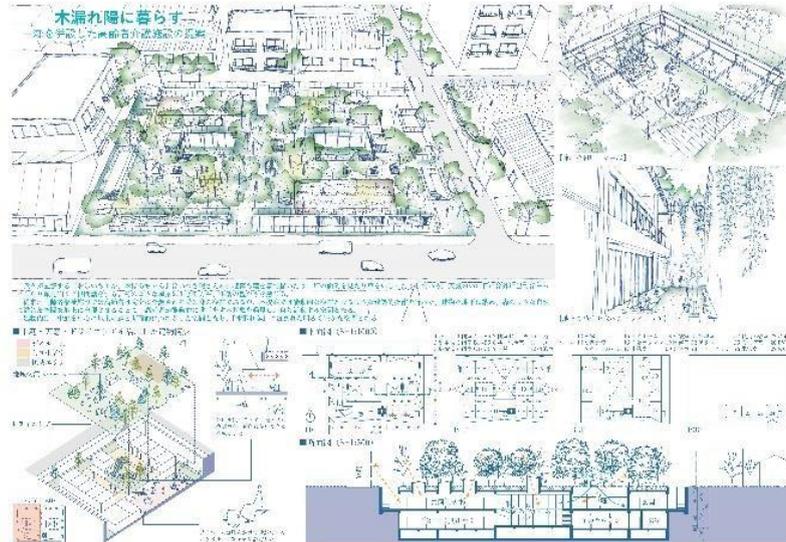
紙面での伝え方において印象づけるためも見せ方の度胸がよかった。提案内容の質、紙面表現ともに高いレベルであり、提案者の美的関心の高さが伺える良作であった。また、プレゼン時に初出となる飛び道具としての追加 CG が審査員を納得させる結果につながったとも言える。提出紙面による審査が大原則であることは理解しながらも、一般のコンペ・プロポーザルであれば、こうした戦略的振る舞いは評価されて然るべきだと考える。

出展者感想

設計条件を自分で取捨選択するなかで、建築の興味を再思考することができ良かった。

13) 野澤 雄一朗、小川 航耀

「木漏れ陽に暮らす -森を併設した高齢者介護施設の提案-」



選出理由

外観をかえ、地下に入れることで今までに見たことがないものができている。

ドライエリアなど大胆な案だけではなく繊細なものがあった。気持ちの良い空間が広がっていると感じた。情熱が形になっていると感じた。一級建築士の実試験ではRCラーメンかつ真壁形式を採用することから、外装に関してはお世辞にも美しい建物にならないのが実情である。

本提案では、実試験での提案内容を元にサンクンガーデンに囲まれたコスト的な課題はありつつも「外観を気にしない」地下形式を採用することで、インテリア提案に審査員の目を再フォーカスさせたことが鮮やかであった。同時に上述の通り、試験制度へのウィットに富んだ批評も込められている点も評価を高めた理由である。

出展者感想

外観だけでなく建物の中など評価されてよかった。自由に提案してよいという条件で、提案をよりよくする技術を磨いていきたい。

優秀賞（4 作品）

3) 金子 智哉 「つながりあう美術館」

選出理由

作品をまじめにまとめていて、プログラムは物足りないものの作品としての完成度が高い。設計という体力が必要なものにおいて、バランスよく誠実に解答してくれた。美術館のプログラムをしっかりと吟味しプランニングした点に好感が持てる提案内容であった。一方で、どこか既視感のある提案であることも否定できない部分があり、その点が最優秀賞に届かなかった理由ではないか。ともあれ、提案の質、表現の密度ともに一定の水準を超えており優秀賞に相応しい作品である。



出展者感想

製図試験の作品を昇華することができ、このような機会を与えてくださり感謝している。

8) 江田 拓矢 「公共的高齢者介護施設」

選出理由

一級建築士試験との比較や内部空間のプログラムについてしっかりと考えられていることに関しては高い評価を与えたいと思う一方で、やはり RC ラーメンの即物的でそっけない構造表現にやや疑問が残る提案であった。その点が最優秀に一步足りない理由である。高齢者施設という保守的になりがちなプログラムにおいて、積極的な空間提案があったという点は高い評価に値する。

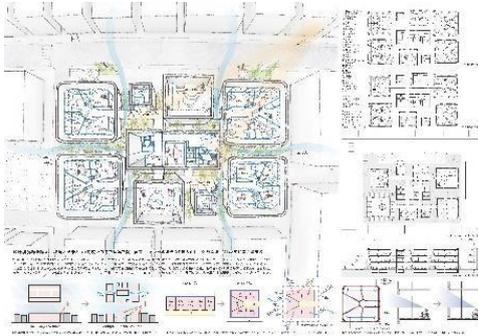


出展者感想

考える機会を与えてくださり感謝している。

11) 福井 貴英 「敷地境界線を超え、環境と風景という解放系の中で建築を捉え直す
-内と外の境界面を最大化し、外部環境に開いた高齢者介護施設-

選出理由

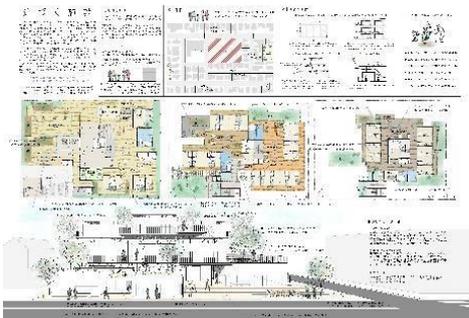


分棟を外部廊下でつなぐプランニングに魅力を感じた。逆梁の採用で視線を外に誘導する仕掛けなど、建築構成部位をしっかりと吟味できている点は非常に共感が持てる。一方で分棟配置密度がやや高密であり、ブリッジ状の廊下が移動空間でしかない点が非常に惜しい。分棟数を減らし、敷地内部の配棟計画に少しゆとりが持てれば、ランドスケープも充実し、大分印象の異なる作品になったのではないかと。

出展者感想

質疑応答が凶星となっていた。実務的なコンペであり、技術面などのアドバイスもいただけて良かった。

21) 山川 尚哉 「近づく施設」



選出理由

内部空間が非常に丁寧に提案されており、実現していてもおかしくないプランニングにも好感が持てる作品であった。一方で外観に突如として現れる樹木を模した構造体など、インテリア提案の密度からすると「考え込まれていない？」部位が目立つ結果になってしまったことが大変に惜しい。

【講演会の様子】



【記録者後記】 基調講演では、鈴木隆氏、瀬戸健似氏がそれぞれの建築に込めた思いやその建築の最適解を見出すための細かい調査・実験・ワークショップなどの過程を知ることができとても貴重な機会だったと感じております。美しい建築や人と人をつなぐ建築は多くの人が連携し、協議したチームワークの結果であるということを改めて感じました。

公開審査会では、1級建築士試験の製図課題を出展者が自由に条件を変更させることにより、試験では表現することができなかった出展者自身の建築に対する興味や建築内部の魅力的な空間の提案を見ることができ、出展者に応じてとても個性あふれるものであると感じました。また、実務に近い質疑応答から設計で大切にしたい部分を残すためのロジックな回答の必要性について考えることができました。

最後になりましたが、講演していただいた鈴木様、瀬戸様、お忙しい中ご参加いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。